



◆東海地方 2016年7月 景気判断 コメント抜粋

	分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連	やや良	ボーナス商戦の月であり、需要を減退させるマイナス要因も少ないため、7月に入って新車を購入する動きが活発になっている。(乗用車販売店 経営者)
		不変	インバウンドの爆買いも終わり、物から事へ消費が変わりつつあるなか、客単価が低くなる分を量的な部分で補うという形で経済は推移している。(旅行代理店 経営者)
		やや悪	取引先からは、他社の仕事が減っているとか、支払を先延ばしにする元受事業者が増えているといった話が増えている。(住宅販売会社 従業員)
	企業動向関連	やや良	前年に成功した実績の効果で、他社から追随する形で案件の問い合わせが増えてきている。(その他サービス業 ソフト開発)
		不変	円高の進展や軟調な株式相場の動きから、投資意欲が減退し様子見の個人投資家が多い。購買意欲も大きくない。(金融業 企画担当)
		やや悪	数か月前までは原料価格が下がり、収益は上がっていたが、客との値下げ交渉がほぼ決着し、製品単価及び収益は2~3か月前と比べて若干ダウンしている。(化学工業 営業)
	雇用関連	良	求人数は、3か月前比で120%、前年比でも108%と堅調に推移している。常用稼働者の年間ベースの動きでも、右肩上がりの推移が10か月間続いている。(人材派遣会社 支店長)
		不変	企業から業績が上向きという声は聞かないが、人手は不足している。しかし、賃金を引き上げてでも人員を確保しようとする動きはみられない。(職業安定所 所長)
		やや悪	新規求人数は、前年比1.3%の減少、前年同月比で5.6%減少となっている。このところ増加傾向にあったが、すべての産業において微減に変わってきている。(職業安定所 職員)
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向関連	やや良	消費税増税の再延期で駆け込み需要の期待はなくなり、客の動きは落ち着いている。マイナス金利政策が続き、固定金利は史上最低で、ローンを組む上では先を見据えた計画が立てやすく、お盆休み以降の動きに期待ができる。(住宅販売会社 従業員)
		不変	介護保険制度の見直しにより、サービスの利用者数が減少する可能性はあるが、競合する事業所数が頭打ちからやや減少傾向にあるため、大きな変化はない。(その他サービス [介護サービス] 職員)
		やや悪	前月は好成績だったが、7月はその勢いは持続しなかった。もしこのままのペースで下がれば、2~3か月後には元の低水準に逆戻りする。(商店街 代表者)
	企業動向関連	やや良	テロが続く等、国際社会情勢に不確定要素は残るものの、年末商戦に向けて、売上は徐々に伸びていく。(電気機械器具製造業 企画担当)
		不変	28兆円の補正予算、電力会社の料金値下げ、有効求人倍率は全都道府県で1倍を超え、消費者物価指数が4か月連続で前年同月を下回る等、景気の上向き要因がどこまで個人消費を押し上げるかによる。(通信会社 法人営業担当)
		やや悪	客層の高齢化、若年層の購買力の低下、人材確保も困難なことから、先行きもやや悪くなる。(新聞販売店 [広告] 店主)
	雇用関連	やや良	下期の生産体制を安定させるために、今から人材を確保し、採用した人材の定着率を上げようという動きがある。(アウトソーシング企業 エリア担当)
		不変	賞与水準が前年より良くなったという企業はみられず、従業員の賃金等、待遇改善が進んでいないため、消費が活性化する材料が見受けられない。(職業安定所 所長)
やや悪		周りの製造業等の動きから、先行きの営業状況は不安定な見通しである。大手製造業の予算削減で影響を受ける企業は多い。徐々に他の製造業にも影響が広がり、2~3か月先には身の回りの景気は、現状よりやや悪くなる。(人材派遣会社 営業担当)	